

水田貯留に

ご協力をお願いします。

今、雨の降り方が変わってきています！



最近の雨

ゲリラ豪雨や集中豪雨による災害が、全国において頻繁に発生しています。安城市においても令和4年7月末豪雨にて1時間最大降雨量92mm、総雨量144mmを記録し、床上浸水12棟、床下浸水24棟の被害が出ました。



通常時の追田川



豪雨時の追田川

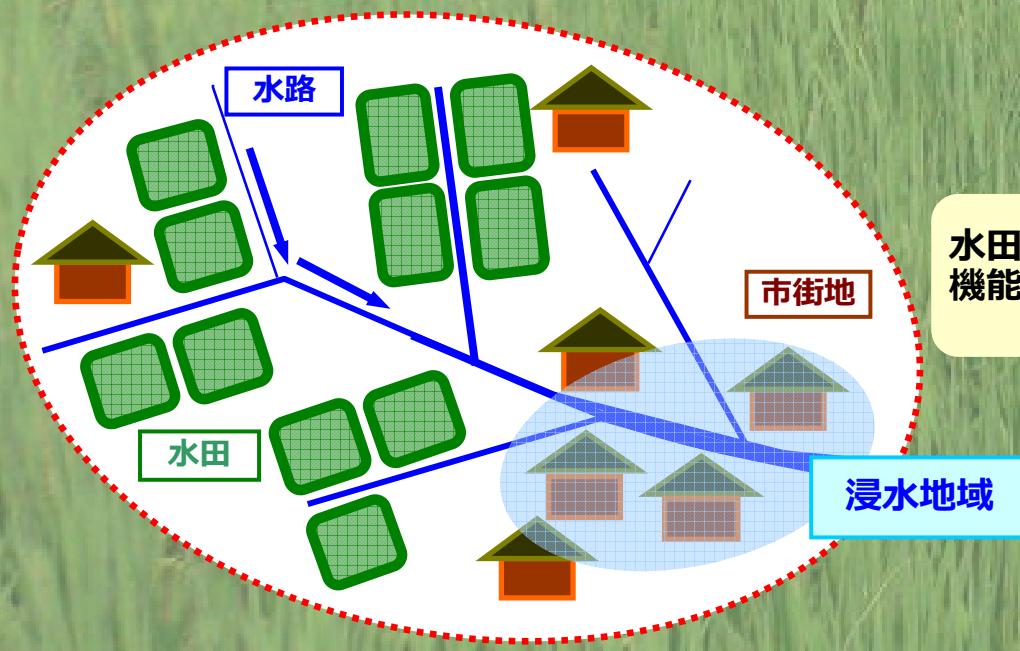
『水田貯留』に取り組むことで、より災害に強いまちづくりが実現できます！

より災害に強いまちづくりへ

「雨を速やかに流す」から「雨を貯める、浸透させる」へ発想転換し、“より災害に強いまち”にしたいと考えています。

その方法のひとつが“水田貯留事業”です。水田に雨を5cm程度もう少しだけ余分に貯めることで、洪水被害を軽減させることができます。

この事業は、私有地である水田を利用して行うため、水田の所有者、耕作者の協力が必要です。



水田はミニダムの機能をもっています。



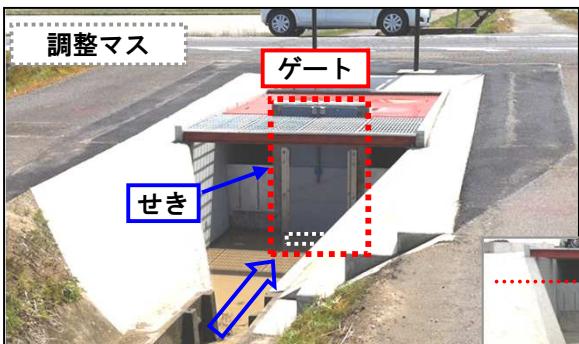
『水田貯留』の方式～いつもより『もう少しだけ余分に』貯める～

水田貯留には、①水路流量調整方式と②排水マス流量調整方式があります。どちらの方式も、水田にいつもより『もう少しだけ余分に』雨水を貯めることができます。

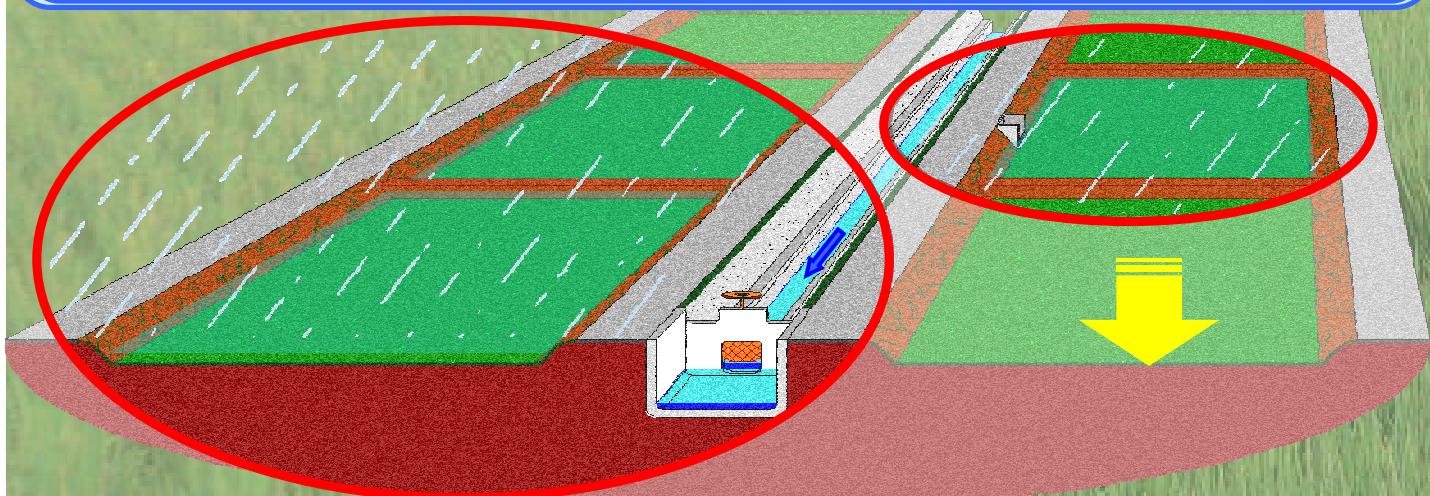
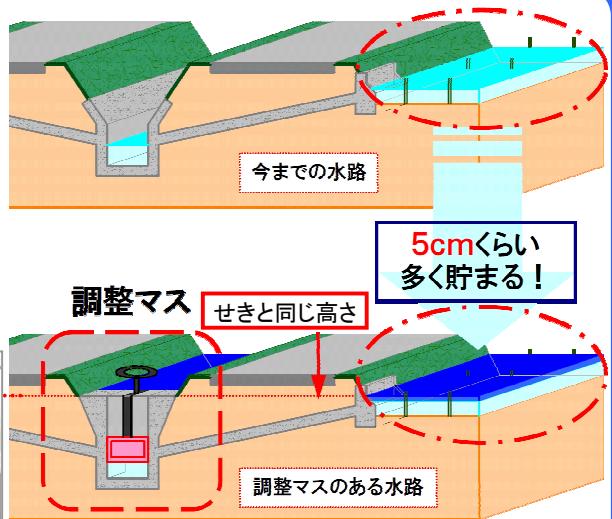
『たくさんの水田で、同時に』雨水を貯める ①水路流量調整方式

◆水路の流量を調整できるマスを設置します。

- ・下流に流れる量を少なくすることで、一時的に水田と水路に雨水を貯めます。



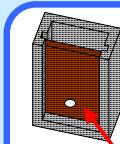
※転作時は作物に影響を与えない
ように、ゲートを全開にします。



“より災害に強いまち”にするため、水田貯留事業へのご理解・ご協力をよろしくお願いします。



『ひとつひとつの水田で』雨水を貯める ②排水マス流量調整方式



・一筆排水マスに、5cmの孔が開いた水田貯留用のせき板を設置することで、いつもより5cm程度余分に雨水を貯めることができます。



大雨が降ると
5cm程度多く貯まる!

